

# 西郷村 望ましい教育環境のあり方に関する基本構想(案) 概要版

## ■本計画の役割・目的

全国的に少子高齢化が進行する中、西郷村においても児童生徒数の減少が緩やかに進んでおり、学校施設の老朽化も顕在化しています。加えて、情報化・国際化の進展により、学校教育には多様な教育ニーズへの対応や新たな教育的取り組みが求められています。こうした状況を踏まえ、西郷村教育委員会では、村民の皆様のご意見を伺いながら、**西郷村の未来を担う子どもたちに質の高い望ましい教育環境を提供するため、基本構想及びグランドデザインを策定することとした**しました。

将来的な児童生徒数の減少、学校施設の老朽化への対応を検討するため、令和4年度より学識経験者、PTA代表、学校運営協議会(地域代表)、学校関係者で構成する「西郷村学校適正化配置検討委員会」を組織し、学校適正化について議論をおこなってきました。

## ■西郷村教育環境の現状

### ○学級数の見通し

#### 中学校

中学校では、**西郷第二中学校及び川谷中学校は標準規模である12学級を下回っており、今後も学級数が減少する見通しです。**また**西郷第一中学校は令和9年度から令和15年度にかけて標準規模を確保できますが、令和16年度以降は標準規模を下回る見通しです。**

#### 小学校

小学校では、**熊倉小学校及び小田倉小学校は、今後も標準規模である12学級を確保できる見通しです。一方米小学校、羽太小学校、川谷小学校は現在も標準規模を下回っています。**特に**川谷小学校、羽太小学校では一部の学年が複式学級となっています。**

### ○学校施設の老朽化の状況

校舎の状況としては、**小田倉小学校が築45年、西郷第一中学校が築49年、羽太小学校が築40年と老朽化が進行しています。屋内運動場では、小田倉小学校及び川谷小・中学校が築55年、羽太小学校が築49年と老朽化が進行しています。**

#### ▼小学校の学校施設の築年数(令和7年度)

学校名	教室棟		屋内運動場	
	建築年	築年数	建築年	築年数
熊倉	平成4年	33年	平成7年	30年
小田倉	昭和55年	45年	昭和45年	55年
米	平成2年	35年	平成3年	34年
羽太	昭和60年	40年	昭和51年	49年
川谷	昭和63年	37年	昭和45年	55年

#### ▼中学校の学校施設の築年数(令和7年度)

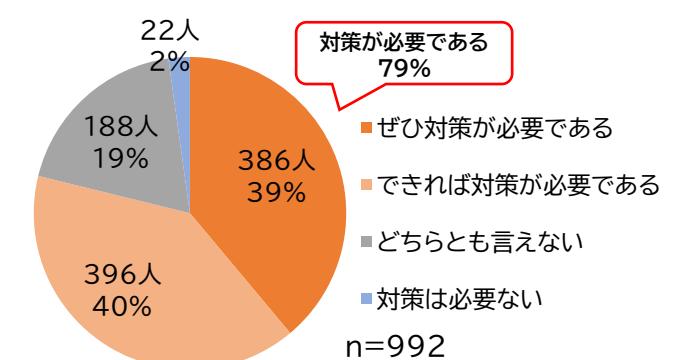
学校名	教室棟		屋内運動場	
	建築年	築年数	建築年	築年数
西郷第一	昭和51年	49年	平成24年	13年
西郷第二	平成11年	26年	平成14年	23年
川谷	昭和63年	37年	昭和45年	55年

## ■村民の意向

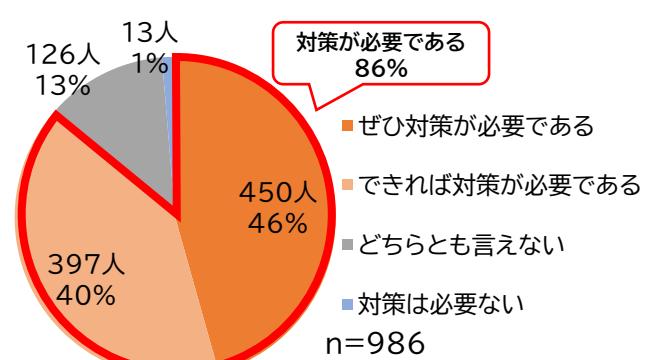
### ○村民アンケート

村民を対象としたアンケートでは、西郷村の小学校における課題(複式学級化や子どもたちの人間関係が固定化されるなど)について、「ぜひ対策が必要である」「できれば対策が必要である」と回答した方は**79%**、中学校における課題(教員が揃わない、部活動の人数が揃わないなど)について、「ぜひ対策が必要である」「できれば対策が必要である」と回答した方は**86%**と、課題に対する対策が必要であるという声が多くあげられています。

#### ▼ 西郷村の小学校における課題について



#### ▼ 西郷村の中学校における課題について



### OPTA・教職員ワークショップ

PTAや教職員を対象としたワークショップを実施し、西郷村の教育環境の将来像を話し合いました。ワークショップでは、「子どもたちの将来像」として、**基礎的な学力の定着、他者理解、楽しく健康的に体を動かすこと、安全・安心な生活環境などが望まれており、「望ましい教育環境のあり方」として、個別最適な学習機会、体験活動、学年・学校を越えた多様な交流、多様な運動機会などが必要とされています。**

#### ▼ 開催概要

開催校	日時	参加者数
熊倉小学校	令和7年2月18日	13名
小田倉小学校	令和7年2月26日	11名
米小学校	令和7年2月28日	12名
羽太小学校	令和7年2月13日	10名
西郷第一中学校	令和7年2月21日	16名
西郷第二中学校	令和7年2月17日	8名
川谷小・中学校	令和7年2月15日	9名

#### ▼ ワークショップの様子



#### ▼ PTA・教職員WSで出された「望ましい子どもたちの将来像(太字下線部)」と「教育環境のあり方」

#### 学力

みんなで考えて課題解決できる  
・グループワークなどの集団での活動

国際化に対応できる  
・オンラインでの英語教育  
・ICTの活用

学力を生活に活かせる  
・学外学習・体験機会の充実

対応する教育環境のあり方について  
整理が必要な意見

自分で進路が決められる  
夢や目標がある  
・学年を超えた交流や、他校の子どもたちと交流できる機会・場

個性を表現できる  
自分を肯定できる  
・特別活動(行事や学外学習)の充実

安全・安心に過ごす  
・学校のセキュリティ強化  
・子ども見守り隊の継続  
・放課後も安全に過ごせる場所

楽しく体を動かし健康的  
体力がある

心や物を大事にできる  
・道徳学習の強化  
・SNS教育の推進

心身共に健康  
・SCなど相談体制の充実  
・質の高い給食  
・子どもたちの居場所づくり

自分事として物事を捉えられる  
・子どもが主体となる行事・イベント

#### 心力

他者を理解・許容できる  
・学年を超えた交流や、他校の子どもたちと交流できる機会・場

決断力・判断力がある  
しなやかで諦めない気持ちを持つ

自ら進んで行動する  
・やりたいこと・好きなことに挑戦できる環境

体力

# 西郷村 望ましい教育環境のあり方に関する基本構想(案) 概要版

## ■西郷村の学校教育環境が抱える課題

現状や村民の意向を踏まえ、西郷村の学校教育環境が抱える課題を以下のように設定します。

### ①児童生徒数の減少への対策が必要

児童生徒数の減少により、以下のような影響が懸念されます。

- ✓ 集団学習機会の減少と教職員の負担増加
- ✓ 集団活動の制限
- ✓ 人間関係の固定化
- ✓ 教科担任制の運用困難と学習内容の低下(中学生)
- ✓ 部活動の制限と指導力の低下(中学生)

### 小中学校の複式学級の解消等、小中学校の小規模化への対策が必要

### ②将来の児童生徒数を見据えた学校施設の効率的な整備が必要

小中学校では、校舎や屋内運動場等の老朽化が進行しており、児童生徒の安全性や快適性への影響が懸念されます。

### 実情を踏まえ学校の適正な配置を検討し、効率的に新しい学校施設を整備していくことが必要

### ③家庭・地域と学校の連携の維持が必要

地域住民の人口減少、高齢化の進行により、見守り活動・ボランティアの担い手不足が懸念されます。

### 担い手の確保と育成が必要

また、将来にわたって生徒がスポーツや文化芸術活動を続けられるよう、地域で行うクラブ活動への移行が進められています。

### 活動を支える人材の育成や、安定的な活動場所の確保が必要

## ■西郷村の望ましい学校教育環境

### 基本目標

### 自らを高め、共によりよく生き、未来を創造する人を育む学校教育環境

#### 基本方針1

##### 子どもたちにとって魅力的な学びやすい学校づくり

- ①教職員の適正な配置
- ②教育支援スタッフの充実
- ③自主性を育てるカリキュラムの充実
- ④みんなで考え、課題を解決する力の育成
- ⑤国際化への対応

#### 基本方針2

##### 一人一人の可能性を伸ばし人間力を育む学校づくり

- ①多様な交流機会の創出
- ②子どもが主体となる行事・特別活動の充実
- ③人や物を大切にする心の育成
- ④部活動の充実

#### 基本方針3

##### 安全で安心な居心地の良い学校づくり

- ①将来の児童・生徒数を見据えた学校施設の効率的な整備
- ②柔軟で居心地の良い学習空間の整備
- ③地域に開かれた学校としての整備

#### 基本方針4

##### 未来の地域を担う子どもを育む学校づくり

- ①地域学習の充実による郷土愛の醸成
- ②地域産業と連携したキャリア教育の推進
- ③部活動の地域移行に対応した教育環境の整備
- ④放課後・休日の居場所づくり
- ⑤安全な通学環境の整備

### ○望ましい学校環境を確保するための方針

中学校においては、教科担任制の運用や多様な部活動の実施、生徒の安全性や快適性の確保などの観点から、**学級数の減少や校舎の老朽化などへの早急な対応が求められています。**学習環境の質を維持し、児童生徒にとってより良い学びの場を提供するためには、標準規模の学級数(12~18学級)を確保するために、**中学校の小規模化の対策を先行して進めるとともに、小学校の小規模化への対策についても段階的に検討を進めていきます。**

## ■中学生の意向

特に中学校では、教科担任制の運用や部活動の実施など、生徒数減少による影響を受ける要素が多く存在します。中学生の描く望ましい教育環境をより丁寧に把握するため、生徒を対象としたアンケート及びワークショップを実施しました。

### ○中学生アンケート

中学生を対象としたアンケート調査を行い、生徒の学習環境に関するニーズや考え方を把握しました。

**学級数の減少によるクラブ活動、部活動の種類減少や、行事の縮小について問題視しているという声が各校からあげられました。**

### 学校のクラス数が少なくなることにより問題だと思うこと

- ・クラブ活動や部活動の種類が少なくなるかもしれない(63.5%)
- ・運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの行事が小さくなったり、できなくなったりすることがある(62.4%)

### 学校生活の中でできるようになりたいことや身につけたい力(高い意向を抜粋)

- ・基礎的・基本的な知識・技能(72.6%)
- ・考える力・思考力(69.5%)
- ・失敗を恐れず、挑戦する力(57.4%)
- ・外国語によるコミュニケーション能力(54.8%)
- ・自ら学ぶ力(53.8%)

### 部活などを通して学びたいこと、身につけたいこと(高い意向を抜粋)

- ・強い精神力を身につけたい(62.4%)
- ・試合やコンクールで良い成績をあげたい(60.9%)
- ・ルールや技術等の基本を身につけたい(55.3%)

### ○中学生ワークショップ

中学生を対象としたワークショップを実施し、中学生の考える望ましい学校のあり方について話し合いました。

**快適な学習環境や、部活動の充実、生徒が自主的に活動できる行事、地域の人にも役立つ学校などが、望ましい教育環境としてあげされました。**

▼ワークショップの様子



▼開催概要

	日時	参加者	参加者数
西郷第一中学校	令和7年7月8日	3年生	121名
西郷第二中学校	令和7年7月15日	2年生	58名
川谷中学校	令和7年7月15日	1、2、3年生	27名

▼西郷村の中学生が考える望ましい学校

#### 学校の施設・設備のこと

- ・快適で便利な環境の中で学習・生活できる
- ・施設・設備がだれにあっても使いやすい
- ・体育館、校舎、講堂が広くて快適
- ・トイレ、水道、ロッカーカーなど設備が充実している

- ・自習や生徒の自主的な活動に使える場がある
- ・ICT環境(Wi-Fi、タブレット、電子黒板など)が整っている
- ・職員室が快適で先生が働きやすい

#### 学校のプログラムのこと

- ・学校行事に全力で取り組める
- ・他校との交流ができる
- ・校外学習や体験型授業が充実している
- ・部活動の種類が多く、充実した活動ができる
- ・自分の学びたいことを授業で学べる

- ・AIやICTを活用した学習ができる
- ・食の楽しみを学べる(家庭科など)
- ・給食が美味しい、十分な量が提供される
- ・村の伝統を学び継承する機会がある

#### 生徒たち自身のこと

- ・生徒全員がお互いを尊重しあえる
- ・行きたいと思える魅力がある
- ・ルールやマナーを守って生活できる
- ・目標に向かって高めあうことができる

- ・個性が発揮できる
- ・主体性が尊重される
- ・明るく、笑顔で生活できる

#### 学校の外のこと

- ・通学の負担が少ない(スクールバスなど)
- ・地域の人にも役立つ学校

- ・地域の人との交流(見守り隊、伝統文化の学びなど)